

三重大学・志摩市

文化フォーラム2011

～大震災から学ぶこと～

第1回

地震と津波

～東南海地震に向けて取り組むべきこと～

平成23年11月16日

志摩市阿児アリーナ・ベイホール

講演要旨

「地震・津波リスクとその対策」

川口 淳（工学研究科准教授・自然災害対策室副室長）

去る3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、気象庁のマグニチュードでは表現が出来ないほど大規模な連動型地震で、さらに想定を遙かに超える大津波を引き起こし、東日本全体に甚大な被害をもたらしました。

この地震・津波の被害状況を報告するとともに、浮き彫りになってきた防災上の教訓をいくつかの事例をもとに考えます。

また、三重県志摩市地域における地震・津波のリスクについて説明し、東日本大震災の教訓を生かしてこの地域でどのように対策をするべきかを考えます。

「安心・安全なまちづくりを目指して」

福山 薫（生物資源学研究科特任教授）

東日本大震災の惨状は、私たちに大きな衝撃を与えました。甚大な被害をもたらした地震と津波という二重の天災や原発事故のなかで、防災・減災のために何かできることはなかったのでしょうか。大災害時に人の命を救うのは、「自助」と「共助」です。国や自治体の支援（「公助」）を待つのではなく、自助や共助をうまく機能させ、より安全・安心な社会づくりのために、今、私たちは何をすべきでしょうか。本講演では、まず東日本大震災の教訓を通して、迅速さと正確さが求められる安否確認の問題点や課題について考えます。

また、三重県や国内各地で私たちの研究グループが行ってきた安心・安全なまちづくりの活動の一端を紹介します。特に、ますます発達しつつある情報システムをこうした活動に平常時からうまく組み込む方法や、皆が暮らす地域や共同体のなかで日頃どのような取り組みをすべきか等について、そのヒントを探ります。